

江戸時代朝鮮通信使

訪日400周年 後編

朝鮮通信使は、日本国と朝鮮国が対等の関係で、信を通わした使節団であり、江戸時代に12回やって来しました。

今年、この通信使の渡日が始まった慶長12年（1607）から数えて400年となる記念の年です。

【朝鮮通信使が見た牛窓】

通信使一行は、旅の記録を書きとめ、朝鮮国王に報告しなければなりません。このため、通信使が見た・感じた日本の様子を、知ることができません。では、400年前の牛窓はどう記されていたのでしょうか。第一回の副使であった慶暹の記録「海槎録」を見る

と、4月5日「卯の時、牛窓に到り泊る。亦備州の地方、利隆の管下也。閩閩海に臨み、僅かに三百余戸に至る。利隆、其の管下の人を遣わして支供す。飯後順風を得、帆を張りて行を啓く。」と、牛窓は海に面したまちであり、家数があま

り多くない様子が記されています。また、宿泊地（接待地）ではなく、食料の補給などを行う休息地であったことが分かります。

古代から瀬戸内海の要港として栄えた牛窓ですが、江戸時代の初頭は下津井や次の寄港地である室津に比べて、牛窓は盛んな港ではなかったようです。しかし、

約百年後に渡日した通信使の記録には「浦上の人家幾ど千余戸」と記され、他の寄港地に負けないほど繁盛した様子が分かります。

なお、帰路は風が良かったので牛窓には寄港せず、通過しています。通信使一行も目的を果たした後は、遠い異国の地での長旅に疲れ、望郷の念が募り、早く故郷に帰りたく先を急いだようです。

【牛窓に残る朝鮮通信使の足跡】

港町牛窓の往時を想わせる風景は、台



通信使が残した書軸や陶器が飾られる*本蓮寺客殿謁見の間

風などにより年々失われています。その町の中に残る通信使の足跡は、宿舎にもなった本蓮寺が所有する書軸や陶器、宿館となった御茶屋の礎石とその井戸などがあります。

応接のために掘られたと刻まれており、水の確保が重要な課題であった様子が分かります。

※本蓮寺の書軸は、客殿改修のためしばらく見る事ができません。通信使資料を展示する海遊文化館に、レプリカ一幅が常時展示されています。

市では、400周年を記念した密陽市との市民交流事業や記念イベントなどを計画しています。その際にはぜひ積極的に参加し、平成の通信使となり友好を深めてください。

ジャンプ

ステップ

ホップ

このコーナーは、生涯学習に生き生きと取り組む皆さんを紹介し、皆さんも仲間入りしませんか。

華麗に舞う

「牛窓日本舞踊とわの会」

日本の伝統芸能でもある日本舞踊。牛窓日本舞踊とわの会の皆さんは、牛窓町公民館牛窓分館で、けいこに精を出します。

しぐさや表情、手や体の動きなど一つ一つの所作で、歌に合わせ物語を表現。峰永幾久澄さん（赤磐市）のマンツーマンの指導で、皆さんコツをつかみます。

古典から演歌まで、歌はいろいろ。厳かで上品に踊ったり軽快に踊ったりと、歌詞の内容をイメージしながら踊ります。発表会は、年に数回あり、倉敷芸文館、文化祭、敬



体全体で物語を表現します



練習熱心なとわの会の皆さん

老会などで舞踊を披露します。

「日常から離れた、別世界の時間を過ごすのは、とても楽しい」と、練習熱心なとわの会の皆さん。あなたも日本舞踊と一緒にしてみませんか？

★活動日時 火曜日

午後2時～4時55分

★活動場所 牛窓町公民館牛窓分館

★会費 一回1、000円

★代表 小竹希未子さん

☎0869-34-4177

明るく、楽しく、元気よく！ 「長船フレンズ軟式野球 スポーツ少年団」

長船フレンズ軟式野球スポーツ少年団の練習日。小学1～6年生の団員13人が元気な声を出し、汗を流しています。

同団は、発足5年というまだまだ若いチーム。先輩を見て学ぶことはできませんが、正しい投げ方・捕り方・走り方・打ち方ができるように、基本を重視した練習に真剣に取り組んでいます。

同団のモットーは、「明るく、楽しく、元気よく」。練習も試合も、厳しい中にも楽しくすることが大切！



みんな元気で仲よし！



守備練習に打ち込む団員たち

と、指導者の浦上勝巳さんは話します。「みんな仲良しです。今の目標はすべての大会で優勝することです！」とキャプテンの浦上育大君（11歳・長船町磯上）。

同団では、新人団員歓迎会やバーベキュー、ボウリング、クリスマス会などイベントも盛りだくさんです。ただ今、団員を募集中です！一緒に軟式野球をしてみませんか？

★活動日時 土・日曜日

午前8時～正午

★活動場所 ベネッセグラウンド・吉井川河川敷グランド

★会費 月1、500円

★連絡先 浦上勝巳さん

☎0869-26-2553